



和光市

産業振興計画

【概要版】



和光市イメージキャラクター
「わこうっち」

はじめに

産業をとりまく環境は、長期化する景気低迷など厳しい状況にあり、このような中で、市内産業を活性化していくためには、事業者・農業者自らの努力や創意工夫はもとより、産業に関わる多様な主体が、連携・協働していくことがこれまで以上に重要となります。

また、市内産業は、和光に住み、働き、訪れる人々のいきいきとした暮らしを支える原動力であり、市内産業の活性化が市民生活の向上につながることから、産業振興が市政の重要な柱の1つと位置づけられます。

そこで、本市が目指す産業振興の将来像を明らかにし、将来像の実現に向けたまちづくりの指針を定めることが必要という観点から、「和光市産業振興計画」を策定しました。

「和光市産業振興計画」では、商業、工業、農業における現状を整理するとともに、将来像を掲げそれを実現するための施策の基本方針を提示し、今後の産業振興の指針としてその推進に努めてまいります。

平成23年3月

和光市

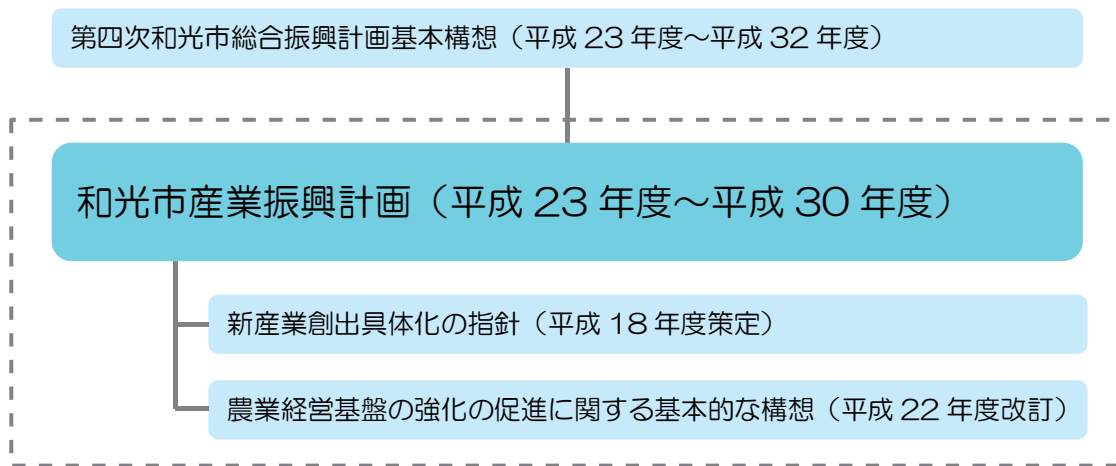
1

産業振興計画とは

計画の目的

本市が目指す産業振興の将来像を明らかにするとともに、市民や事業者をはじめ、多様な主体の連携・協働によって、将来像の実現に向けたまちづくりを進めるための指針とすることを目的として、産業振興計画を策定しました。

計画の位置づけ



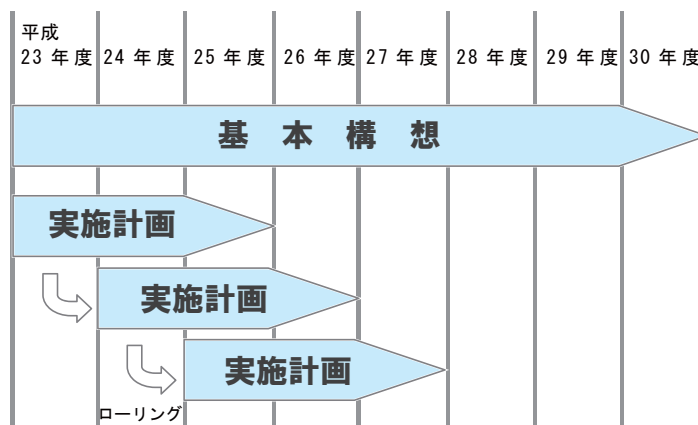
計画の期間と構成

①計画の期間

目指すべき産業振興の将来像を市民や企業等をはじめ、多様な主体がともに共有し、その実現に向けた取り組みを行っていくために、平成23年度から平成30年度までの8年間で計画期間とします。

②計画の構成

本計画は、産業振興の将来像や基本方針と、その実現に向けた事業内容として、基本構想と実施計画の2層で構成されています。



2 産業の現状と課題

産業の現状

【わが国の産業をとりまく環境】

- 経済のグローバル化の進展
- 成長が期待できる新技術・新商品による競争力の強化
- 「食」の安全・安心、「農」への関心の高まり
- IT（情報技術）の進展と技術革新
- 地域間競争の激化、ブランド化の広がり

【本市の産業の状況】

- 商店数・従業者数・年間商品販売額の減少
- ニッポン全国鍋合戦のイベントとしての定着
- 和光理研インキュベーションプラザ入居企業への、市内進出のための手助けが求められている
- 農家数・農家人口の減少、認定農業者数の伸び悩み
- 経営耕地面積の減少、遊休化のおそれ
- 市民農園や観光農園が利用され、地場農産物の直売所等がある
- 地域の社会活動を市民とともに行う企業の認定制度がある
- 中小企業向けの融資制度やセーフティネット保証制度がある
- 市民の就業率は高いが、女性の就業者の割合は低い
- 勤労者福祉センターに対し、ニーズに合わせたサービスの提供が求められている
- 高齢者の買物はバスに頼らざるを得ない
- 従業者数・製造品出荷額等の減少



産業振興上の課題

【商業・サービス業に関するもの】

- ・地域間競争に応じたこだわりや個性の創出、イベントの認知・新たな産業への発展が必要
- ・商店街の充実、買物困難者の手助けが必要

【工業に関するもの】

- ・地域や国際競争力の強化、企業の成長を視野に入れた新技術・新商品の創出が必要
- ・和光理研インキュベーションプラザの周知・有効活用、市内定着に向けた進出条件等の考慮が必要

【農業に関するもの】

- ・地域間・国際間競争に応じたこだわりや個性の創出、食の安全・安心、農への関心を考慮し、直売所等や農業体験の場の充実が必要
- ・農業の担い手、農地の遊休化の防止が必要

【その他】

- ・中小企業の経営環境や新事業への支援が必要
- ・企業市民認定制度の周知・制度の充実、地域活動等への貢献が必要
- ・雇用拡大・就労希望者の手助け、福祉施設の充実が必要

-
- ・商業・サービス業、工業、農業ともこだわりや個性の創出が必要、工業では成長を視野に入れた新技術・新商品の創出も必要
 - ・それぞれ市民生活と密接に関わるものであり、日常的な買物や食生活、地域活動、就労環境など、市民の多様なニーズへの適切な対応が必要

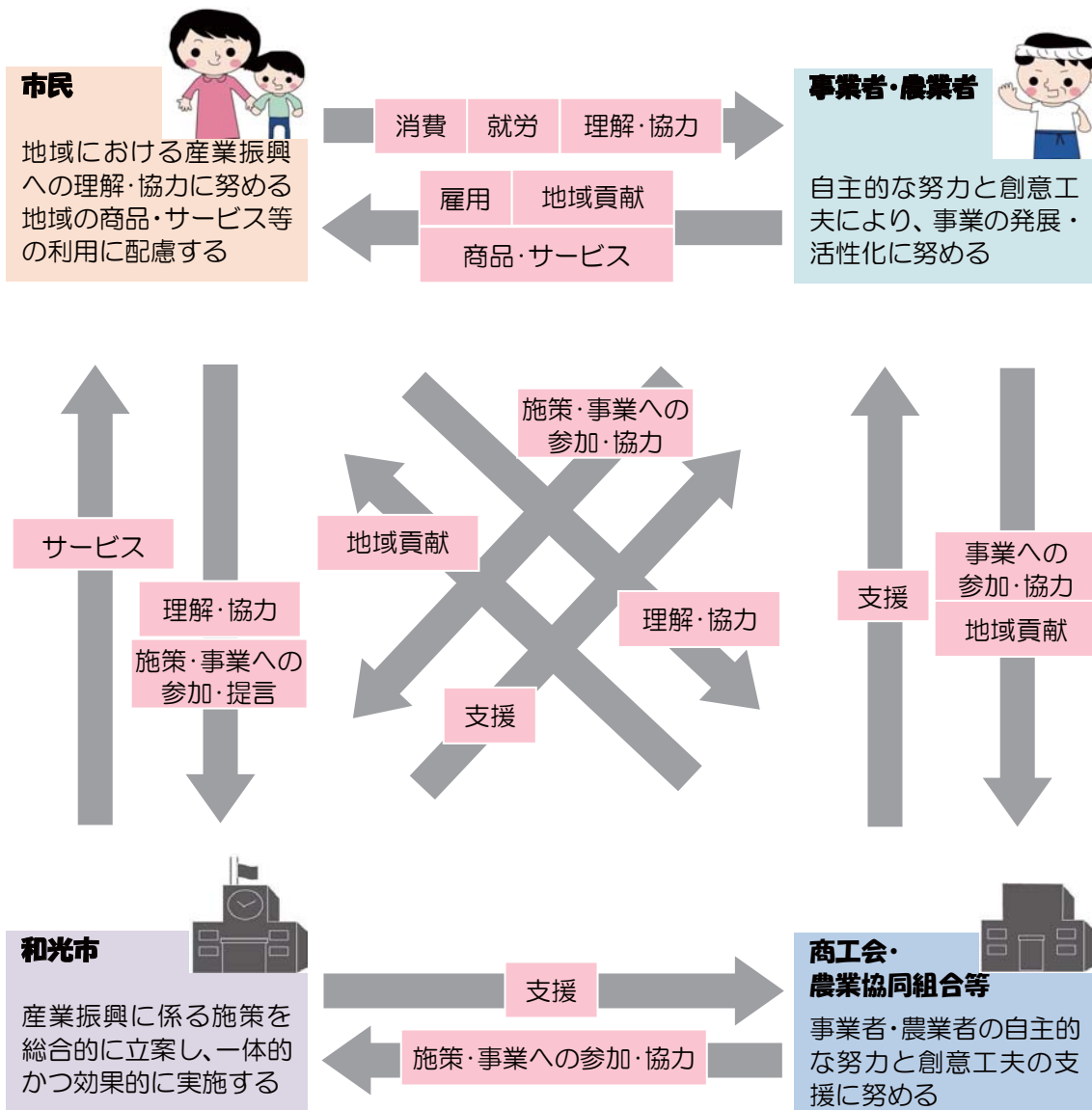
産業振興の将来像

産業をとりまく環境は、地域間や国際間の競争にさらされており、本計画では、本市の特徴を活かすことで競争力を強化し、賑わいあるまちを目指します。

将来像

本市の特徴を活用し、
市民や事業者など多様な主体の連携・協働による
賑わいあるまち

【「多様な主体の連携・協働」のイメージ】



興の方向性

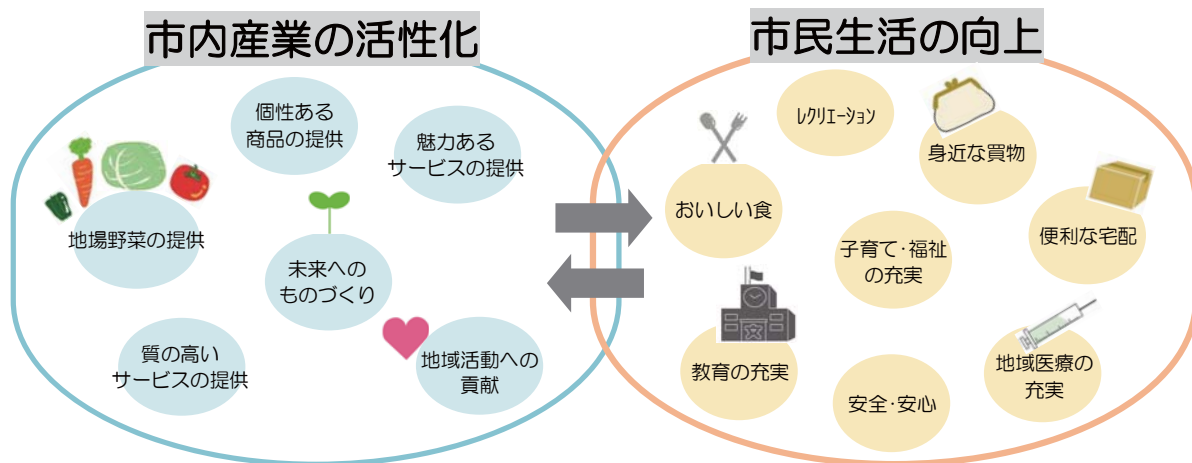
産業振興の目的

産業振興は、企業誘致をはじめとする総合的な施策の展開により、『市内産業の活性化』を図るものです。結果的に、雇用の確保、観光・交流機会の拡大、人口の増加、財政基盤の安定につながる効果があります。今後は、「個性ある商品の提供」や「地域活動への貢献」「未来へのものづくり」など新たな取り組みの強化を図ります。

一方、産業振興は、事業者・農業者の努力のみでなし得るものではなく、市民との連携・協働が不可欠なものとなります。また、『市内産業の活性化』が『市民生活の向上』につながるとともに、逆に、『市民生活の向上』が『市内産業の活性化』につながる、という相乗効果を持つと考えられます。このため、施策や事業の推進にあたっては、市民参加を重視していきます。

このように、本市の産業振興は、『市内産業の活性化』と『市民生活の向上』を車の両輪と捉えて進めることを基本的な考え方とします。

【「産業振興の目的」のイメージ】



賑わいあるまち“和光”へ



4 産業振興

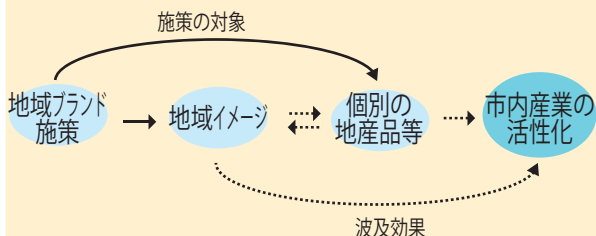
地域ブランドの創出

商業・サービス業、工業、農業とも、地域間競争の中、こだわりや個性の創出が必要であり、地産品(商品・サービス・製造品・農産物・農商工連携)のブランド化を考慮し、施策の柱として「地域ブランドの創出」を設定しています。

また、地域ブランドは、地域(本市)イメージのブランド化を行い、波及効果として、地産品の販売拡大や観光・交流の増加も目的としています。

●地域ブランドの開発等

- ・地域資源の収集・分析、外部環境の分析
- ・地域ブランド戦略の策定
- ・地域ブランドの開発
- ・地域ブランドの情報発信



中小企業の基盤強化

中小企業は厳しい経営環境にあり、経営環境や新事業への支援が必要となっています。また、市民ニーズへの対応として、地域活動等への貢献や商店街の充実、買物困難者の手助けが必要となっています。これらのことから、施策の柱として「中小企業の基盤強化」を設定しています。

●中小企業の経営支援

- ・創業・移転企業資金融資
- ・中小企業資金融資
- ・商工団体活動支援

●地域貢献の推進

- ・企業市民認定

●商業環境の整備促進

- ・商業環境づくり

新産業

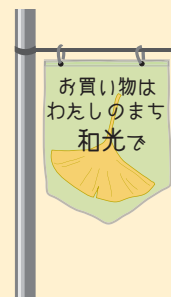
地域間競争の中い経営環境にあり、理化学研究所を新商品の創出が必要。また、和光理研イプラザの周知や有に向けた進出条件となっています。この施策の柱として設定しています。

●新産業ゾーンへ

- ・新産業定着支(和光北インタ(市内定着に向

●新産業の創出・

- ・新産業創出育(和光理研インザの情報発信(イノベーション)検討)



の基本方針

の創出

、中小企業は厳しい、成長を視野に入活用した新技術・要となっています。ンキュベーション効活用、市内定着等の考慮が必要とこれらのことから、「新産業の創出」を

の企業誘致

援

一地域への企業誘致)けた支援策の検討)

経営支援

成支援

キュベーションプラ

・利用促進)

ンセンターの整備の

都市農業の基盤強化・担い手の育成

都市化や担い手不足による農地の減少、遊休化など、農業は厳しい環境にありますが、一方で、「食」の安全・安心や「農」への関心も高まっており、担い手が必要であるとともに、農地の遊休化の防止、農業体験の場の充実、直売所等の充実が必要となっています。これらのことから、施策の柱として「都市農業の基盤強化・担い手の育成」を設定しています。

●担い手の支援・育成

- ・都市農業支援
- ・農地環境保全対策

●農地の利用集積

- ・農用地利用集積

●農業体験の実施

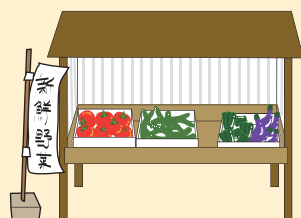
- ・都市農業支援（再掲）
- ・体験型農園設置支援

●市民農園の設置支援

- ・市民農園施設整備
- ・市民農園管理運営

●直売所等の設置支援

- ・都市農業支援（再掲）



就労支援・勤労福祉の推進

女性の就業者の割合が低く、雇用拡大・就労希望者の手助けが必要となっています。また、勤労者のための福祉施設の充実が必要となっています。これらのことから、施策の柱として「就労支援・勤労福祉の推進」を設定しています。

●求人情報の提供

- ・求人情報提供

●事業者への雇用啓発

- ・雇用促進意識啓発

●就労希望者の支援

- ・勤労福祉センター管理運営

●勤労者の意識啓発

- ・技能者表彰

●勤労者福祉の推進

- ・勤労福祉センター施設整備、勤労福祉センター管理運営（再掲）
- ・勤労者住宅資金貸付



和光市産業振興計画（概要版）

平成 23 年 3 月 和光市

発行：和光市市民環境部産業支援課

埼玉県和光市広沢 1 番 5 号

☎048-464-1111（代）

